

ブックサークルだより

第16号 発行 令和元年12月



読書の秋、みんなで本を楽しもう！

10月21日から25日まで、大嶺小学校は秋の読書週間でした。学校図書館のディスプレイも、「月」をテーマにし、秋らしい雰囲気になりました。



朝の読み聞かせ

21日に朝の読み聞かせを、1年1組・3年1組・5年1組で行いました。

1年1組では、大型絵本「ふしぎなカサやさん」紙芝居「もりのポスト」を読みました。子どもたちは、笑いながら聞いてくれました。

3年1組では、絵本「よかったねネッドくん」「かんけり」を読みました。奇想天外なお話の突っ込みをいれ、びっくりした様子がみられました。

5年1組では、絵本「このよでいちばんはやいのは」を読みました。最後まで興味深く、一番はやいものを想像しながら聞いていました。



植田先生のおはなし会

23・25日には、恒例の植田先生のおはなし会がありました。

「にんじんだいこんごぼう」「三枚のお札」「なら梨とり」「天福地福」等の日本の昔話、「やぎとライオン」「金の髪」等の外国のお話や詩など、いろいろなお話を聞くことができました。子どもたちも笑ったり、次はどうなるのか、かたずをのんで聞いたりとお話の世界を楽しんでいました。

45分間の授業時間をいっぱい使って、何も見ずにお話を語られ、あっという間に時間が過ぎていきます。「もっと聞きたい」という声がでていました。



学校図書館に入れる新しい本準備中です



学校図書館には、毎年新しい本が入ります。たくさんある本の中から、子どもたちは、表紙やタイトルや絵を見ながら、借りていく本を選んでいきます。現在、新しい本を入れる準備をしているところです。これから図書館に入る本の中から、いくつか紹介したいと思います。

<低学年～>

スパゲッティがたべたいよう

(角野 栄子：作 ポプラ社)

高級レストランの屋根裏に住んでいる小さなおばけの男の子アッチはおいしいものが大好き。

ある日、お散歩中に女の子がおいしそうなスパゲッティをつくっているのを発見。一口食べようと、姿を消して鍵穴から台所に入り、気味の悪い音をたてたり、おばけ風をふかせたりしますが、女の子は平気。なかなかスパゲッティを口にすることができません。さあ、アッチ、どうする??

アッチ・コッチ・ソッチの小さなおばけシリーズは今年で40周年。その第1作目です。

<中学年～>

ブランの茶色い耳

(八東 澄子：作 新日本出版社)

4年生のみほは、動物愛護センターで耳の先だけ茶色い「ブラン」という名の犬に出会います。ゲージの奥で震えている姿が気になったみほは、ブランを家で飼うことにします。ブランは、みほの家族や友達に大切に世話をされ、互いに慣れつつあった時、みほやその友達が公園に遊びに行くのに、いやがるブランを連れ出そうとしたため、ブランは家から逃げ出してしまいます。さて、ブランは、みほのところへ帰ってくるのでしょうか?

<高学年～>

鬼遊び 鬼よぶわらべ歌 (廣嶋 玲子：作 小峰書店)

少年サクは、足が速いがために鬼ごっこに入れてもらえません。鬼ごっこが好きなサクはつまらなくなり、「鬼でも化け物でもいいから、俺と鬼ごっこしてくれる奴いないかな」と言うと、「いいよ」と誰かがサクの横を駆け抜けます。

それから4日間、キツネの面をかぶった男の子に鬼ごっこで追い詰められる夢をみます。5日目には夢の中で転んだのに、起きると足がはれて痛みます。「今日逃げ切れなかったら、本当の鬼につかまってしまう」と思うと怖くなり、白目のおばばに泣きながら相談します。おばばは、「今夜は満月、うまくやれば何とかなるかもしれない」と秘策を伝えます。さて、サクは今夜の鬼ごっこで逃げ切ることができるのでしょうか?

「鬼ごっこ」他、鬼よぶわらべ歌にまつわるゾクとする短編がいくつか入っています。

